

---

**【JAPIC】ウィークリー・レポート【第36号】'10/06/17発行**

---

社団法人日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）事務局  
JAPIC 事務局より、毎週木曜日にウィークリー・レポートとして、活動報告と併せて委員会開催予定などをお届けします。

**【今回のトピック】****◆ Women's Table 3分科会を開催**

日本創生委員会タスクフォース Women's Table（野田由美子委員長、2009年8月発足）では、「国家ビジョン」づくりに向け、5月初旬より、メンバーの国家公務員と民間（企業・団体）および現役大学生など若い女性が参加、3つの分科会を開催している。

各分科会では、30年後の日本、世界をイメージしながら、「多様性が受容される国」「世界に誇れる国」「安心して暮らせる国」の視点から活発な議論を展開、

第1分科会では、未来の価値観を形成する人材育成について、教育の視点から議論。多様性の受容のため、幅広い才能を引き出す複線的な教育を多様性の主眼に、各分野のトップエリート、リーダー育成のための教育の重要性、世界に誇れる国を目指し、日本の強みであるチームワークや技術力の高さと創造力を両立させることの重要性が挙げられた。

安心して暮らせる国づくりのためには、誰もが社会参画しやすい環境整備が必要であり、再教育システムの構築が必要。人材の需要と供給のミスマッチを埋めるところに教育が介在する等の意見があった。今後、価値観や国家観の醸成についても議論を深める。

第2分科会では、30年後の日本、世界の産業構造を想像しながら、世界に誇れる国をめざして、国内産業・需要の活性化、海外展開の可能性という国内外双方の観点から意見交換。

地域・地方の活性化、産業再生の方向性の中での公民の役割、日本（人）の強み（技術力、チームワーク）等が挙げられた。今後、地域主権や総合的安全保障（経済と外交）についても議論を進める。

第3分科会では、国家経営的視点に立った「働き方」の議論のため、競争力や格差の許容度、資本主義のあり方など、将来めざす社会像の共通認識を形成。

内需に着目し、食料だけでなく、必要な自給率を上げるためにはどのような社会であるべきなのか意見交換、第1次産業や観光業、また社会福祉の水準と消費活動のバランスについて議論を深めた。今後、日本の資本主義や社会保障のあり方についても議論を深める。

次回（第9回）Women's Table 全体会は、7月8日（木）開催予定。

以上